

現代文B	報告課題第四回	年	組	氏名
	解説			

【ワスレナグサ】

グローバリエーションという言葉を知っていますか？国が違い、民族が違うなら、習慣や生活様式が多様で、価値観も多元的なのは当然です。それぞれの文化や価値観を認め合うというのはグローバリエーションの基本概念となっています。筆者も旅を通じて、この概念に思うところがあつたみたいです。さて、今回は全部で五段落となっています。少し長いですが、ちょっとした旅行気分で読み進めていきましょう。

- ① 初め～二三ページ三行
- ② 二三ページ四行～二五ページ四行
- ③ 二五ページ五行～二六ページ一〇行
- ④ 二六ページ一一行～終わり

第一段落 子供の誕生

吹雪の北極圏で、初めて子供の誕生を知った。身体の奥底から力が湧いてくるような気がして寝つくことができず、さまざまな思いを巡らせた。

第二段落 旅人から住人へ

アラスカを旅するようになって十六年が過ぎた。この土地で暮らすことを決めてから、風景は変わらないのに、自然も人々の暮らしも自分の一生と重なって見えるようになった。結婚をし、妻はアラスカに来て野生の花々に魅せられた。自分も、大きな自然だけでなく、花の世界に目を向けるようになった。

第三段落 極北の花ワスレナグサ

昨年の夏、花の撮影のためにベーリング海のアリューシャン列島に行った。苛酷な環境で咲く花の美しさは、格別にすばらしい。とりわけ、ワスレナグサの姿は忘れられない。岩陰にはいつくばるように咲く、小さな花だった。そのワスレナグサがアラスカの州花であることをうれしく思った。

第四段落 自然と時間

何年前か前、テレビ番組の撮影に同行したとき、うまく撮影できず焦るテレビ局のディレクターと話した。撮影が思わくどおりにならなくても、北極海沿岸の自然をしっかりと見ておこう。生きることができるのは、ただ今しかないのだと。それをワスレナグサも語りかけているようだった。ベースキャンプとなった場所は、自然の豊かな場所だった。自然が連環していた。意味を持つのは、結果ではなく過ごした時間である。日々の営みと並行して流れるもう一つの時間を忘れてはならない。

第五段落 子供へ

子供に、自分の思いを伝えてゆきたいと考えながら、生命の気配を夜の闇の中に探していた。

以上が段落ごとの要約と内容のポイントになります。これらを踏まえて報告課題に取り組んでいきましょう。